



# みらいっうしん

11月号

2023年11月1日  
田園調布学園大学  
みらいこども園  
園長 勝浦 芳子

## 秋を感じて

朝晩の冷え込みが大分厳しくなり秋が深まってまいりました。乳幼児期は体温の調節が難しいため、体調を崩し易いので、健康には十分お気をつけください。

「天高く馬肥ゆる秋」と昔から言われておりますように、両手を広げて、空を見上げて深呼吸すると「気分爽快」新たなエネルギーをたくさんいただけるようで、心が豊かになります。この機会に興味あることを体験してみるのもいいですね。

10月17日、待ちに待った園庭で育てていたサツマイモ掘りを行いました。まず、にじ組さんが、「わーい」と畑に飛び込み、ツルを引っ張ると、あちこちから、「あったよ」「でっかい」「かぼちゃみたい」「お化けみたいなお芋もあるよ」「ワーこれはちっちゃい！赤ちゃん芋だ」などと声上がり、どの子も夢中になってお芋掘りを楽しみました。周りにいたほし組さんや乳児さんは、「僕もしたいなあ〜」「この葉っぱなんだろう」と興味津々で、葉っぱを頭の上につけて、「トトロの葉っぱ」と言って走ったり、綱引きしたり、電車ごっこをしたり、リースを作ったり、ツルを体に巻いたりして、アイデア満載の遊びを楽しんでいました。畑には、例年、子ども達の大好きなバッタ、アリ、カエルなども隠れていましたが、今年は、いつもと違って猛暑だったせいか、あまり隠れていませんでした。全体的にできたお芋も少なく、そら組さんが植えた麻袋のお芋は、少し小ぶりのものが多かったです、天候によっても実りの状況が変わることも、教訓として受け止め、これからも野菜の栽培を行っていきたいと思います。しかし、自分で植えた苗が育ってお芋が出来たことはよい体験になったことと思います。今年のサツマイモも、大きいもので重さ1キロぐらいのものもあり、給食室から計りを借りて、重さ比べもしました。今回の体験では、数量や形、色、土の感触、匂い、道具の使い方なども、友達と「こうしたらうまくいくかな？こうしてみようよ」と沢山言葉を交わしながらの学びがありました。収穫したサツマイモは、にじ組さんがきれいに洗い、調理室でふかしてもらい美味しく頂きました。今年も、お芋やさんの看板が立ち、チケットでお芋をいただくやりとりもあり、いつも以上にお芋を食べる会は盛り上がっていました。乳児さんも、おかわりする子も多く、今年もみんなで美味しくいただきました。

10月20日は、ほし組さん、10月26日は、にじ組さん、10月27日はそら組さんが、お散歩遠足に出かけました。ほし組さんは、せせらぎ遊歩道を中心に、草木や生き物を見つけながら、秋を感じてきました。また新城高校にお邪魔して、どんぐり拾いを体験させていただきました。当日は、校長先生や高校生も立ち会い、温かく見守っていただきました。そら組さんは、せせらぎ遊歩道を通って、千歳新町公園まで行きました。そら組さんは、そのほかに担任がマップを作り、ポイントごとマップに書いてあるものを見つけるゲームも行い、発見する楽しさも味わいました。にじ組さんは、観光バスに乗って、「王禅寺四ツ田緑地」に行き自然体験をしてきました。まるで、妖精のトトロが住んでいるような森の中を歩き、古木や、キノコ、虫、どんぐりを見つけたり、木登りや手作りブランコを体験したり、思うままに自然を満喫しました。にじ組さんになると、物を見る目(観察力)が磨かれ、中には、生物博士のように、見ただけで名前や特徴を友達に話している子もいて、互いに生き物について学ぶことが出来ました。今回は、NPO 法人国際自然大学から「ひげじい」と「かぼちゃん」という方が森の案内人をしてください、田園調布学園大学からは、20人くらいの学生さんも子どもたちとたくさん触れ合ってくださいました。普段体験できない自然環境でしたので、蜂が近くにきたら、{お地藏さんのポーズをすると、刺さされないよ}と教えていただき、率先して行っている姿もありました(笑)。自然と触れ合うことは、五感を豊かにするだけではなく、命の尊さも学ぶことにつながります。これからも、いろいろなことに興味関心をもち続けて欲しいと思います。お昼は、お手製の美味しいお弁当を、仲の良い友達と一緒に食べました。「ママのお弁当は、世界一美味しいね」と言いながら、幸せいっぱい笑顔が溢れていました。今回の遠足は、どの日も天候に恵まれ、天の神様も、子どもたちを温かく包んでくれました。乳児組さんも秋を感じに、これからお散歩を楽しみたいと思います。子ども達から体験談をたくさん聞けるといいですね。

